

令和元年度 多可町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

会議の名称	多可町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会
開催日時	令和元年9月30日(月) 午後2時00分～午後4時30分
開催場所	多可町役場 3階 特別会議室
出席委員の氏名	藤田守男委員、小寺博史委員、藤浦重美委員、中道忠憲委員、 平井年樹委員、三村敏委員、上尾田真委員、桂禎之委員、 三宅康成委員長
多可町役場 出席者の職・氏名	吉田一四町長 (商工観光地課) 金高竜幸課長、高見隆一副課長、奥村祐司副課長、 笹倉敏弘課長補佐 (産業振興課) 藤本巧課長、池田公平副課長、藤田寿彦副課長 (定住推進課) 小西小由美課長、畑中俊裕副課長、笹倉尚美課長補佐 (企画秘画課) 谷尾諭課長、藤原徹副課長、杉原延宏課長補佐
傍聴人の数	0人
議題・協議事項	1 開会 2 あいさつ 3 委員自己紹介 4 報告及び質疑 (1) 地方創生事業の概要 (2) 平成30年度地方創生推進交付金事業の取組報告(各事業) 指標値(KPI値)、実績値の説明 令和元年度の取組 (3) 質疑応答 5 事業への意見・提言など 6 閉会

会議の記録（概要）

事務局

吉田町長

○開会

○あいさつ

委員の皆様ご苦労さまです。

本日は総合戦略の検証委員会ということでご参集いただいております。

先日の創生懇話会でご協議いただきました第二次の総合戦略につきましては、順次作業を進めておりまして現在は、住民アンケートの集計分析作業に入っております。

また、来月10月中旬には、多可高校生のワークショップの開催を予定しておりまして、先日の記者発表でもこの件については触れさせていただいております。このワークショップに兵庫県立大学の学生さんと商工会青年部の女性グループママライフさんにお世話になりましてワークショップの内容を深めるためのファシリテーター役としてご参加いただくことになっております。

また、役場の方でも創生懇話会や検証委員会に参加いただいている各種団体の皆さんにご助言をいただくだけでなく、子育てするなら多可町というテーマのもと現在、若手職員が中心となって少子化対策について活発に議論をしております。その中にももちろん私を含め幹部職員も参加をしているところですが、その議論のコーディネーターをお願いしました兵庫県参与の清原桂子さんからも注目すべきターゲットはやはり高校生・中学生であるという見識のご意見もいただいております。高校生・大学生・女性の起業者というマッチングの効果によりまして、いままでとは違った視点の取組が見いだせることに期待を寄せております。

話を戻しまして本日の会議についてですが、第1次総合戦略に謳われております政策施策の内、国の地方創生交付金を活用して実施しました事業の平成30年度の取組と本年度の進捗状況について担当課から報告し皆様のご提言をいただきたいと思っております。

本日の検証委員会でのご意見ご提言につきましては、取りまとめをいたしまして、地域創生推進交付金事業の評価検証として議会報告をさせていただく予定にしております。よろしく申し上げます。

事務局

○委員自己紹介

各委員から自己紹介

事務局	○委員長の指名 町長より三宅康成氏を委員長として指名。
三宅委員長	三宅委員長から議事進行について説明
谷尾課長	○報告及び質疑 (1) 地方創生事業の概要 (全体) 会議資料に基づき事務局 (企画秘画課 谷尾課長) より説明 (2) ・平成30年度地方創生推交付金事業の取組報告 ・指標値 (KPI 値)、実績値の説明 ・令和元年度の取組
金高課長	会議資料に基づき担当課より説明、質疑応答。以下のとおり。 <u>(A)地域資源を活用したヘルスケア産業・推進事業【地域資源を活用した健康 保養地事業】に関する事業説明、取組報告 (会議資料により)</u> <u>(商工観光課)</u>
委員	整備したコース数の部分で、P13の平成30年度は11コースで、平成31年度は10コースとなっている。コース数が減っているのはなぜか。
担当	P13に記載のある11コースは実績値で、P14の10コースは指標値となっている。
委員	11コース整備したが、実際には10コースのみ実用化するというのか。
担当	そういうことではなく11コース実用していく。指標値より実績値の方が多くなっているの、こういった書き方になっている。
委員	見方によると数値が減ったように見える。また10コースのみ整備し、今後も10コースになるように見える。示し方を検討してほしい。
会長	指標値と実績値の書き方としてそういう風にみえてしまうという意見。実際はそうではないということで間違いないか。
担当	間違いない。
会長	こういった、実績値が指標値を超えている箇所の難しい部分でもあると思うが、指標を達成した後は、質を求めていくことを今後進めていくべき。人材育成数の指標の部分で、育成した人材のうち、利用者に満足いただける人材がどのくらいいるのかも重要な部分。 今後はそういった部分をみていける指標にシフトするべき。

委員	資料をみたところ、KPI としては達成している部分が多いようにみえるので良いと思う。しかし、「①宿泊型・日帰りプログラムへの参加者数」の指標が目標達成していない理由としてはどういった理由があるのか。
担当	昨年に法人化した関係で、法人化の準備でプログラムの周知や予約準備等が行き届いておらず、8月までの受け入れ量が十分ではなかったことが理由であると考えている。9月以降は十分な受け入れができたが、指標としては届かない結果となった。
委員	昨年がイレギュラーということで、今年度は達成に向けて十分ということか。
担当	今のところの進捗は良いです。
	<u>(B)地域資源を活用したヘルスケア産業・推進事業【ラベンダーを活用した認知症対策事業】に関する事業説明、取組報告</u>
	<u>(商工観光課) 事業説明、取組報告 (会議資料により)</u>
金高課長	(商工観光課)
委員	延べ113名の参加があったということであるが、実質は何名か。
担当	26名である。
委員	26名中3名に数値改善という効果がみられたということか。
担当	数値の検証は、初日と最終日で実施させていただいた。
	その違いでの検証結果とさせていただいている。しかし、最終日に欠席された方もいるので、実際に効果がみられたのが3名のみだったかというの
	はわからない状況である。検証方法は今後検討させていただきたい。
委員	実際に検証できた対象者が少なかったなので、本当はもっと効果あったかもしれないということか。
担当	その通りである。
委員	今年度、この事業に関する交付金が減っている理由はなぜか。
担当	北播磨ラベンダーは指定管理ということで、町の方とも連携して事業を実施している。今年度は交付金として減少はしているが、昨年度に比べ
	連携内容等の充実を図ることで、金額として減った分もご理解いただいているという状況である。

<p>金高課長</p>	<p>(C)地域ブランド推進による「多可町ファン」拡大事業【地域ブランドの発掘・発見・創出】に関する事業説明、取組報告 <u>(商工観光課) 事業説明、取組報告 (別紙資料により)</u></p>
<p>委員</p>	<p>P17 に記載のある前年度課題としての、「多可町への来町者の増加に反映できる事業展開が不可欠である。他の地域との差別化を図る施策が必要である。」という部分が、次のページの黒丸の事業に反映されているということか。</p>
<p>担当</p>	<p>課題を踏まえて検討させていただいた事業と考えていただければと思う。まずは多可町に関する周知を図っていくためにどういったことを進めていくべきかという部分を重点として検討させていただいている。</p>
<p>金高課長</p>	<p><u>(D)地域ブランド推進に「多可町ファン」拡大事業【地域ブランド売り出し強化事業】に関する事業説明、取組報告</u> <u>(商工観光課) 事業説明、取組報告 (会議資料により)</u></p>
<p>委員</p>	<p>世帯数として数が記載してあるのは、市民農園のみの数か。</p>
<p>担当</p>	<p>P93 に一覧表を記載させていただいてる。周知をしながら少しずつ埋まっている状況。</p>
<p>委員</p>	<p>「ブライベンオオヤ」「ブルーメンやまと」の入居者数は伸びてきてこの数値なのか、棟数に対し入居者数は、近づいているのか、それとも、これまでは全室で入っていたのに、少し減ってこの数字なのか。そういった推移もみれたら良いと思う。</p>
<p>担当</p>	<p>入居者としては伸びてきている。場所によっては、予約待ちのところもある。</p>
<p>委員</p>	<p>予約待ちの場所がなぜそうなっているのかも、分析していただけたら良いと思う。</p>
<p>藤本課長</p>	<p><u>(B)地域資源を活用したヘルスケア産業・推進事業【ラベンダーを活用した認知症対策事業】に関する事業説明、取組報告</u></p>
<p>委員</p>	<p><u>(産業振興課) 事業説明、取組報告 (会議資料により)</u></p> <p>目標としての栽培面積は整備できたということだが、今後は栽培面積としては積極的に増やす方向ではないということか。</p>
<p>担当</p>	<p>オイルの生成のためのラベンダーの確保が難しいので、花見のため対応できる面積を増やすための事業として進めてきた。栽培面積としては達成したので今後は、面積を増やす方向ではなく、各団体の自立のための事業を進めていく予定としている。</p>

	(C)地域ブランド推進による「多可町ファン」拡大事業【地域ブランドの発掘・ 発見・創出】に関する事業説明、取組報告
藤本課長	(産業振興課)事業説明、取組報告(別紙資料により)
委員	一坪の家というのは、最終的に参加者が持って帰って利用するための ものか。
担当	その通りである。参加者に引き渡し、参加者が部屋として使うのも よし、物置として使うのもよしというものである。
委員	実際に使用するのは屋外か。
担当	屋外での使用を想定している。
	(E)地域ブランド推進に「多可町ファン」拡大事業【定住・推進】に関する事 業説明、取組報告、
小西課長	(定住推進課)事業説明、取組報告(会議資料により)
委員	UIJ ターン移住者数で「外国人含む」となっていると聞いているが、 外国人が何人くらいを占めるのかを知りたい。また人数として増えてい るのかも知りたい。
担当	今データを持っていないので、正確な数値はわからない。 外国人の移住は増えているが住民登録まではしてない方も多い。
委員	移住者として増えているという事実はあること言うことか。
担当	その通りである。
委員	UIJ ターンで移住してくる方が住む住宅としては、賃貸が多いのか、 それとも家を購入する方が多いのか。
担当	移住者の住む場所をすべて管理しているわけではないので そこまでの把握はできていない。しかし、助成等他の施策を 通じての移住者は、家を購入する方が多い。賃貸があまりない ということも理由の1つであると思う。
委員	実際に、現在お住まいの方に賃貸物件提供のお願いをすると、断られる 方が多いのか。
担当	家の一室を、寮のような感じで外国人に貸し出すというのは、無理だ というご意見が多い。若い世代の移住で、村の仕事や役割をしてくれる 人なら良いという集落もあり、集落によって移住も考えていないという ところもある。まずは空き家バンクの周知から進めている段階である。

	○全事業を通しての意見・提言など
担当	先程の外国人の移住者数に関しての正確な数字が出たので、報告させていただきたい。移住者 407 人のうち 112 名が外国人となっている。
委員	昨年度の移住者か。
担当	その通りである。
委員	移住の外国人は、目的としては働くためにきているのか。
担当	そこまでの調査は行っていないので、わからない。
委員	研修生が多いのではないかと推察されるが、国としてはどこが多いのか。
担当	今持参した資料は人数のみの部分なので正確なところはわからないが、アジア圏からの転入者が多いと聞いている。外国から直接多可町に移住したのではなく、京都等に一度移住し、そこから多可町に移住したという方もいる。
委員	最初の項目の方に戻ってしまうが、ガイドの人材の質を上げる部分に関して、ガイド育成の研修も実施されていると思うが、ツアーに実際に参加した方がどんなガイドを望んでいるのか、も重要な部分であると思う。そういった調査は行っているのか。
担当	毎回ではないが、ツアー参加者に対してアンケートを実施している。ツアーに参加される方は多可町に初めて来たという方も多く、多可町の良さをもっと知りたいという感想をいただくことが多い。ツアーではもう一步踏み込んだ案内をすることも視野に入れ、多可町の良さをもっとガイドできればと考えている。
委員	P15 にヒノキ精油と記載があるが、ヒノキ精油は今でも製造しているのか。今現在は造っていないように思うが。
担当	手元の資料では、ヒノキ精油は、出荷額として少額ではあるが、金額としてはある状態。しかし、この数値が製造したものか在庫を使っているのかは不明で、詳しいところはわからない。

委員	<p>農地として、水はけの悪い場所はラベンダーが枯れてしまうなどあり、生育の難しい場所と農地の兼ね合いは難しい部分。</p> <p>土地を探すのも難しく、作物の成長が望める場所を中心に農地としては増やしていけるといい。ラベンダーの栽培に関しては、こういった場所を栽培地としているのか。</p>
担当	<p>ラベンダーの栽培地としては、「ここが遊休農地となっているので、ここを使って」というように、集落の方から提供していただいた土地での栽培を行っている。その農地として、まずは5年間ラベンダー栽培地として運用してもらい、という約束のもと植栽を行っている。5年後にその農地をどのように運用していくか、どう動かすかは集落次第としている。</p>
委員 担当	<p>水はけの悪い場所はラベンダーで運用できれば良いだろう。</p> <p>遊休農地になる場所には、なにかしらの理由があると考えられる。</p> <p>ラベンダーで運用した後、5年後に場所異動する等も集落の方で検討可能である。</p>
委員 担当	<p>育成の方に助成はあるのか。</p> <p>講習会や研修を実施している。</p>
A委員	<p>ヒノキ精油は商工会の事業として実施したのではなかったか。</p>
B委員	<p>前町長の時に製造していたのではないかと思うが、採算が合わなくて今は無くなったかと思っていたが。</p> <p>植え替えやラベンダーポット購入の費用に対する補填はあるのか。</p>
担当	<p>そういった助成は実施していない。</p>
委員	<p>遊休農地に関しては、国でも問題視しており、対応策を模索している状況。ラベンダーが遊休農地解消としての植物になりえるのであれば良いと思うのだが、その辺はどうか。</p>
担当	<p>管理・維持としては大変な部分もあるので、遊休農地解消として良い植物かどうかは難しいところだと思う。しかし、ラベンダーの生花を販売しているところはあまりないので、今後そういった方向に特徴を出していけるよう、案内を進めていこうと考えている。</p>
委員	<p>生花や精油といった産物を抜きにして、景観としてのみでの遊休農地解消という方向では難しいか。</p>
担当	<p>ラベンダーが枯れない限りは、景観として遊休農地解消となると思うので良いと思う。しかし、除草等の手を入れないと荒れてしまうので、また</p>

委員	<p>遊休農地化してしまうと考えられる。</p> <p>ラベンダーで認知症対策ができるというのは大変良いことで、新聞にも記事を提供してもらえば私達としても広めていきたいと思うので、そういった部分、ラベンダー精油等も含めて、周知に活用してもらえればと思う。</p> <p>また播州織も、地区として価値あるものなので、今後広報していければ良いと思う。それに関連して、六甲アイランドにある神戸ファッション美術館を、神戸新聞社が指定管理しているので、播州織に関しても何かできればと思う。例えば、播州織のファッションショー等も考えてみてはいかがか。</p> <p>大きなホールもあるので、検討・活用してもらえればと思う。</p>
担当	<p>播州織に関して、もともと神戸で実施していた事業が、東京での実施に変更したという経緯もあった。確かに市場として、東京は大きい市場なのだと思うが、東京や関東圏ばかりに進出することが良いことか、という懸念もあり、今後は地元での周知も進めていきたいと考えている。神戸タータンや多可タータンと、進めている部分も多くあるので、汎用できる部分、連携含め検討していきたい。</p>
委員	<p>播州織に関する多可町のやり方は、積極的でとても良いと思う。</p> <p>さらに播州織は産地としても広いものだから連携してやることも重要だと思う。西脇市の万博をはじめとして、地元でできる強みを生かしていけると良い。商売として生地や反物を売る際に、大量生産や、売り上げの配分等に係る部分など、団体同士の関係も難しいこともあると思うが、連携取っていくことで発信につながる部分もあると思う。</p> <p>神戸で行った展示会では4～5社に参加いただき、自分の生地を売ってもらい、播州織について知ってもらおう場とすることができた。</p> <p>播州織というブランドに関して、西脇市や多可町で作っているという知名度が低いので、播州織と西脇市・多可町とを紐づけするためのPR方法が重要であると思う。播州織を検索することで多可町に結びつく方法を模索することが大事。</p> <p>また、実際に定住した方が定住のための窓口になっているのは面白い試みだと思う。そういった取り組みも生かして、地域の方が率先して</p>

<p>担当</p>	<p>地域のことをPRしていけるような方策を考えてみるのもいいのではないか。</p> <p>周知を進める部分に関連して、東京の生地市に多可町から参加したこともあり、その場で商談が決まることもあった。</p> <p>また商工会での若手グループと話したりしていると、地域おこしの方で播州織を学びたいという若者もいる。人材不足、後継ぎ問題もあったりするが、服飾学校からの就職も例としてあるので、まずは周知を地道にやっていくことを大切にしている。</p> <p>少しでも知ってもらう機会作りを今後ともやっていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>ラベンダーが認知症に効くのは知らなかった。大阪万博は健康がテーマなので、そういった部分に売っていくのはどうか。</p> <p>また話は変わるが、「あったか家族多世代住宅助成」はどういった助成なのか。</p>
<p>担当</p>	<p>これまでは多可町に住居を新築する方のみへの助成であったのを、同居、近居にも適用範囲を増やした事業となっている。範囲を拡大したことによって申請数は増加傾向となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>移住者のうち外国人が占める割合が高く、移住者数として無視できない数になっていると思う。外国人が来やすい、住みやすいまちとして、まちづくりを進めていくのか、等の対応の検討が必要なのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>研修生の受け入れを実施している事業所もあり、ある日突然来なくなる等の問題や事故もあると聞いている。外国人受け入れ対応のための組織を作ってほしいというお願いもしている状況。求人を出してもなかなか人が来ないという土地として、外国人労働者も大事な部分ではあるとは思いますが、集落での住宅等の協議も含めてくると難しい部分ではあると思う。</p>
<p>担当</p>	<p>多可町では日本語教室を実施しており、元学校の先生をはじめとしたボランティアで運営していただき、週に2回開催している。</p> <p>参加者としては40人ほどの外国人が参加しており、ベトナム人が多い印象で若い方もたくさんいる。そしてこの日本語教室は、生活のルールも学べる機会として開催している。</p> <p>また、こういった日本語教室を開催しているという周知を企業の方にもしている。</p>
<p>委員</p>	<p>集落ごとで外国人の人数把握ができていない。どれくらいの外国人がいるのかわからないと、集落を運営していく部分としては難しいだろう。</p>

担当	<p>集落に溶け込む気がないような外国人の存在は、集落としては不安を感じる部分もあるだろう。まず問題に挙がる部分として、ゴミ出しの</p>
委員 担当 委員	<p>ルールに関わることで衝突が起こることが多い。</p> <p>そういった問題を回避できる手立てがあれば良いとは思いますが。</p> <p>外国人が移住することで、不安があるのは確かだと思う。</p> <p>人口増・労働力増のために、いい形で移住してもらうことはいいことと思う。外国人が増えていく前提でまちづくりを進めていくことは検討しても良いとは思いますが、集落での問題はあるだろうと思う。</p> <p>少し話が戻るが、東京に進出することを中心に据えるのではなく、京阪神を大事にしていくという意見があった。自分も良い考え方だと思う。京阪神から転入してきてもらうためのPR方法、まちの売り方が大事であると思う。それに関連して、今良く使われるのが「交流人口」というキーワード。まちに「住む」とは違う「役割」を持たせた人口、という考え方が一般的かと思うが、そういった方をどう増やしていくか、またどう移住に絡めていくか、大事な部分と思う。</p> <p>三田市の方でも、コンシェルジュによって移住者が増えた、という事例があった。多可町では加美区にコンシェルジュがいるとのことだが、他の区にもコンシェルジュを設けられるといいと思う。</p> <p>また外国人移住のために、外国人のお手伝いもあるといいのではと思う。また、観光に関する部分で、着地型観光がこれまでは重要とれてきていたが、今後は発地的な部分も大事になってくると思う。</p> <p>サテライトスタッフ的な人材を他地域に派遣して、その場でPRしてくる人材も良いのではないかと思う。</p> <p>地域おこし協力隊に参加した方から寄せられる意見として、「目的がよくわからない」「役割が何かわからない」という意見が多くある。今後は「何をやってほしいのか」を明確にして、具体的に「これをしてくれる人」を集める、という人の集め方を行っていくことが大事であると思う。姫路に観光にきている観光客を田舎に連れていく、という取り組みを学生も取り込んでいっていると聞く。「ニートアップ」というSNSを活用しているようだ。</p> <p>田舎の方について田植え等の田舎体験、山登り等に参加してもらうのだが、参加した外国人の満足度は高い。</p>

谷尾課長	<p>まちのPRの方向性として、こういったものを活用するのも良いと思う。</p> <p>最後にまとめのような形で色々言ってしまったが、今回の意見を反映・検討して行ってほしいと思う。</p> <p>閉会</p> <p>委員の皆様方につきましては、約2時間半に及び議論をいただきましてありがとうございました。</p> <p>今回いただきました、ご意見につきましては取りまとめの上、多可町議会へ報告させていただきますほか、現在策定中の第2次総合戦略に反映させていただきます次期の推進交付金事業での取組にも反映させていただきます。</p> <p>これで、令和元年度の多可町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会を閉会させていただいております。お帰り際には気をつけてお帰りください。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
------	--

